



河川の水位と避難行動

避難行動の種類

河川の水位が上昇し、氾濫の危険性が高まった場合は、河川を管理する国や県から水位や防災に関する情報が発表されます。市は、この情報を目安にして、雨の降り方などを総合的に判断した上で避難に関する情報を発表しますので、市民のみなさんは、ご家族やご近所で協力して安全に避難してください。

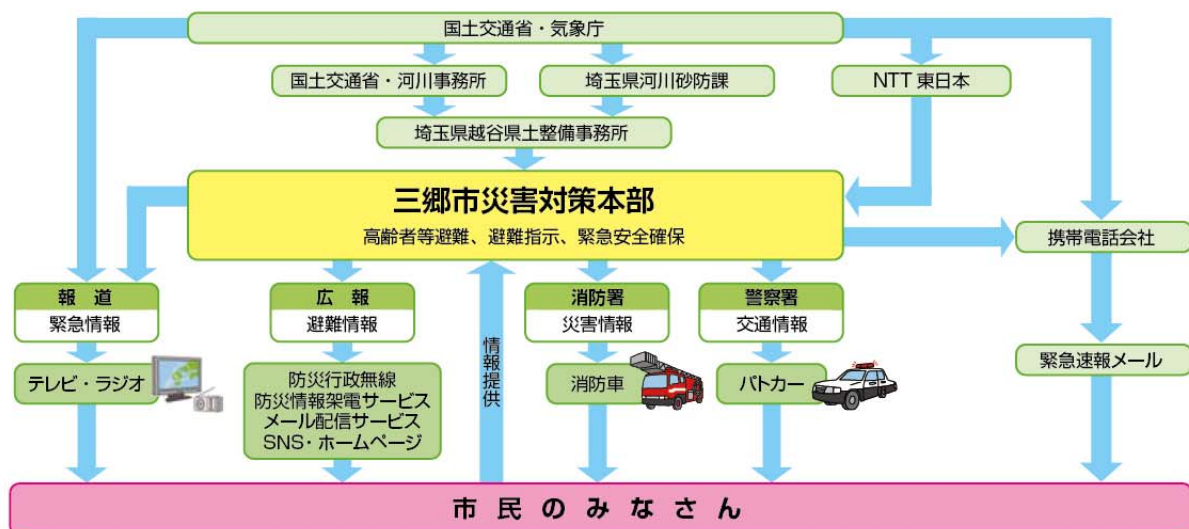


※令和6年5月時点の情報です。最新の水位等につきましては、国土交通省 川の防災情報のホームページ(<https://www.river.go.jp>)をご覧ください。

市民のみなさんは、インターネット等で確認できる河川の水位や国土交通省・埼玉県等が発表する情報から避難の必要性を判断してください。
なお、市では国土交通省・埼玉県・気象庁が発表する情報、雨の降り方や河川の状況等を総合的に判断し、必要に応じて**高齢者等避難**、**避難指示**、**緊急安全確保**を発令します。

情報の伝達経路

河川の氾濫の危険性が高まった場合は、市や気象庁などから発表される情報に注意し、早めの避難を心がけましょう。気象情報・洪水予報(注意報・警報)は次のような経路で市民のみなさんに伝達されます。



気象情報の種類と入手

気象状況に関する注意報・警報などの入手

大雨や暴風などに警戒や注意を必要とする時間帯が市町村単位で一目でわかるように発表されます。また危険度分布や避難情報なども確認できます。それらを活用して避難行動をとる準備や対策を行いましょう。

大雨・洪水に関する情報は、「大雨注意報」、「大雨警報」、「洪水注意報」、「洪水警報」、「記録的短時間大雨情報」などがあります。また「特別警報」が発表された場合は数十年に一度の、これまでに経験したことのないような、重大な危険が差し迫った異常な状況にあります。ただちに市の避難情報に従うなど、適切な行動をとってください。

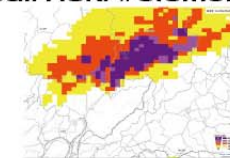
これらの情報は気象庁のホームページやテレビのdボタンから確認できます。

●「警報・注意報」と「警報級の可能性」
気象庁ホームページ
<https://www.jma.go.jp/bosai/warning/>



発表イメージ「警報・注意報」

●浸水キキクル(大雨警報の危険度分布)
<https://www.jma.go.jp/bosai/risk/#elements:inund/>



発表イメージ

●洪水キキクル(洪水警報の危険度分布)
<https://www.jma.go.jp/bosai/risk/#elements:flood/>



発表イメージ

雨の降り方と雨量

降っている雨を観察することで、だいたいの雨量を知ることができます。危険な状態になる前に自分で判断して避難ができるよう、雨の降り方と雨量の関係を知っておきましょう。

	やや強い雨 10～20mm	強い雨 20～30mm	激しい雨 30～50mm	非常に激しい雨 50～80mm	猛烈な雨 80mm以上
予報用語 1時間雨量 (mm)					
人の受ける イメージ					
人への影響	ザーザーと降る	どしゃ降り	バケツをひっくり返したように降る	滝のように降る（ゴーゴーと降り続く）	息苦しくなるような圧迫感がある。恐怖を感じる
屋内 (木造住宅の場合)	雨の音で話し声がよく聞き取れない	寝ている人の半数くらいが雨に気がつく			
屋外の様子	地面一面に水たまりができる		道路が川になる	水しぶきであたり一面が白っぽくなり、視界が悪くなる	
車に乗っていて	ほとんど影響なし	ワイパーを速くしても見づら	高速走行時、車輪と路面の間に水膜が生じブレーキが効かなくなる	車の運転は危険	

最新の気象情報を入手

最新の気象情報や災害情報、河川情報は、テレビのdボタンや気象庁、埼玉県、国交省の各河川事務所のインターネット、メールで入手できます。

気象庁

台風・大雨・土砂災害・竜巻に関する情報 <https://www.jma.go.jp/>

埼玉県

台風情報 <https://www.saitama.lg.jp/a1007/kawanobousaime-ru.html>
レーダー・ナウキャスト(降水・雷・竜巻) <https://www.ktr.mlit.go.jp/tonejo/>
高解像度降水ナウキャスト <https://www.ktr.mlit.go.jp/edogawa/>
土砂キキクル(大雨警報(土砂災害)の危険度分布) <https://www.ktr.mlit.go.jp/arajo/>

埼玉県 川の防災情報

雨量や河川の水位などの情報 <https://suibo-river.pref.saitama.lg.jp/>
国土交通省 川の防災情報 <https://www.river.go.jp/>

国土交通省 川の防災情報

全国の河川の雨量や水位などの情報 <https://www.river.go.jp/>

埼玉県 川の防災情報メール

事前登録により、県内河川の避難情報などを配信
<https://www.pref.saitama.lg.jp/a1007/kawanobousaime-ru.html>

国土交通省 利根川上流河川事務所

川の状況のリアルタイム情報 <https://www.ktr.mlit.go.jp/tonejo/>

国土交通省 江戸川河川事務所

川の状況のリアルタイム情報 <https://www.ktr.mlit.go.jp/edogawa/>

国土交通省 荒川上流河川事務所

川の状況のリアルタイム情報 <https://www.ktr.mlit.go.jp/arajo/>



災害時の連絡方法と防災情報の入手

災害用伝言ダイヤル（171）

災害時に、固定電話、携帯電話等の電話番号宛に安否情報（伝言）を音声で録音（登録）し、全国からその音声を再生（確認）することができます。

体験利用提供

災害発生に備えて利用方法を事前に覚えていただくことを目的として、体験利用日を設けています。

体験利用日

毎月1日、15日 00:00～24:00

1月1日 00:00～1月3日 24:00

防災週間(8月30日 9:00～9月5日 17:00) 防災とボランティア週間(1月15日 9:00～1月21日 17:00)



災害用伝言板（web171）

パソコンやスマートフォンなどから、固定電話や携帯電話の電話番号を入力して安否情報（伝言）の登録、確認を行うことができます。【URL】 <https://www.web171.jp/>

携帯電話・スマートフォンの災害用伝言板

携帯電話のインターネット接続機能で、被災地の方が伝言を文字登録すると、携帯電話番号から伝言を確認できます。スマートフォンでの利用方法は、各社ウェブサイトを確認してください。

* 伝言は PC 等からも確認可能です。

NTT ドコモ <http://dengon.docomo.ne.jp/>

ソフトバンク <http://dengon.softbank.ne.jp/>

KDDI (au) <http://dengon.ezweb.ne.jp/>

ワイモバイル <https://www.ymobile.jp/service/dengon/>

楽天モバイル 災害用伝言板(web171)、Google パーソンファインダー（安否情報）の利用を推奨しています。

公衆電話

公衆電話は、災害発生時でも通信制限が行われず、つながりやすいのが特徴です。公衆電話設置場所は、NTT 東日本のホームページ「公衆電話設置場所検索」で確認できますので、緊急時の連絡手段として場所を覚えておきましょう。

NTT 東日本 公衆電話設置場所検索 <https://publictelephone.ntt-east.co.jp/ptd/map/>

防災情報の入手

防災行政無線放送確認ダイヤル

防災行政無線(ぼうさいみさと)で放送された内容を、防災行政無線放送確認ダイヤルから聞くことができます。

☎(0120)954-310

※フリーダイヤルにかけられる電話は、固定電話、公衆電話、携帯電話です。

※フリーダイヤルの利用可能地域は、固定電話等は埼玉県内、携帯電話等は埼玉県・千葉県・東京都です。それ以外の地域からは、☎(048)953-1125(有料)をご利用ください。

メール配信サービスのご利用を

防災・防犯・イベント・子育てなど、希望する情報を配信しています。

●登録の手順

右記の二次元コードを読み込むか、URLにアクセスしてください。

【携帯電話・スマートフォンの場合】

<https://plus.sugumail.com/usr/misato/home>



防災情報架電サービス

電話番号を登録された方に対して、緊急性の高い防災情報などについて、自動で架電し、合成音声で伝達します。

申込方法については、危機管理防災課までお問い合わせください。

埼玉県防災情報メール

登録された方の携帯電話等に防災に関する以下の情報をメールでお知らせします。

●気象警報注意報 ●地震情報 ●避難情報

●危機管理情報 ●避難所開設情報

<https://www.pref.saitama.lg.jp/a0402/903-20091202-28.html>

緊急速報メール

三郷市では災害発生等の緊急時に、携帯電話会社(ドコモ・au・ソフトバンク・楽天モバイル)が提供する、緊急速報メールで避難情報等を配信します。対応している携帯電話は登録不要で、市民の方でなくても配信いたします。通信料、情報料は無料です。



備える

日頃からの備え

マイ・タイムライン

マイ・タイムラインとは、台風等の接近による大雨によって河川の水位が上昇する時に、「いつ」、「何をするのか」を整理した個人の防災計画のことです。平常時に作成しておくことで、災害時に取るべき防災行動のチェックリストや判断の一助として役立てることができます。



マイ・タイムライン
紹介ページ

わが家の避難地図

浸水状況や避難場所までの経路はお住まいの地域によって異なります。

洪水ハザードマップを使って、自宅から避難場所までの避難経路を記入して避難地図を作ってみましょう。

1. 自宅の位置を確認しましょう。
2. 自宅付近の浸水の深さを確認しましょう。
() m～() mの浸水区域
例：(0.5) m～(3.0) mの浸水区域
3. 避難場所を確認して、自宅との位置関係を調べましょう。
避難経路を考える上での注意事項
地盤が低く水が集まりやすい場所（アンダーパスなど）や、過去に浸水した実績のある区域は、通らないようにしましょう。
避難時危険箇所（地下道）も避けるようにしましょう。
4. 実際に避難することを考えて、「わが家の避難地図」欄に自宅から避難場所までの経路を書き込んでみましょう。

わが家の避難地図



記入例



5. 家族全員で確認しましょう。
避難地図に記入した経路を実際に歩いて、周辺の状況や所要時間を確認しましょう。
実際の災害時は、普段と状況も異なり、避難に時間がかかることを前提に行動しましょう。

防災訓練に参加しましょう

三郷市では、首都直下地震をはじめとする災害に備え、防災体制を強化することを目的に毎年「三郷市総合防災訓練」を実施し、地域の自主防災組織のみなさんによる初期消火訓練や、関係団体様と市が協力して行う救出・救助訓練などを行っています。また、地域の自主防災組織では、災害が発生した際に重要な初動対応の訓練が行われています。

市民のみなさんも市や自主防災組織の訓練に参加することで防災意識を高め、いざというときに冷静に行動できるようにしましょう。





日頃からの備え

備蓄品・非常用持出品

大規模な災害が発生すると、電気やガス、水道などのライフラインが止まり、物資が不足する事態も予想されます。特に食料品は最低3日分（できれば1週間分）を備蓄しておきましょう。また、避難時にすぐに持ち出せるように「非常用持出品」を準備しておくことも大切です。

飲料水・生活用水

□ 3日分の飲料水の備蓄
(1人×3リットル×3日)



食料品等

□ 3日分の食料の備蓄
□ レトルト食品



医薬品等

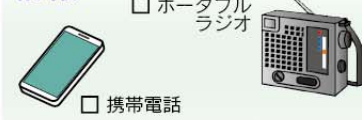
□ 救急用品（傷薬、ガーゼ、包帯、ばんそうこう）



停電への備え



情報



燃料の備え



衣類等・衛生用品



その他



非常用持出品



備蓄向きの食品

●レトルト食品

普段から食べているものを用意する
賞味期限：2年～3年程度



●乾麺（袋ラーメン、パスタ等）

ゆで時間が短いものを選ぶ
賞味期限：6ヶ月程度



●缶詰

肉や魚のほか、野菜や果物の缶詰で栄養バランスをとる
賞味期限：2年程度



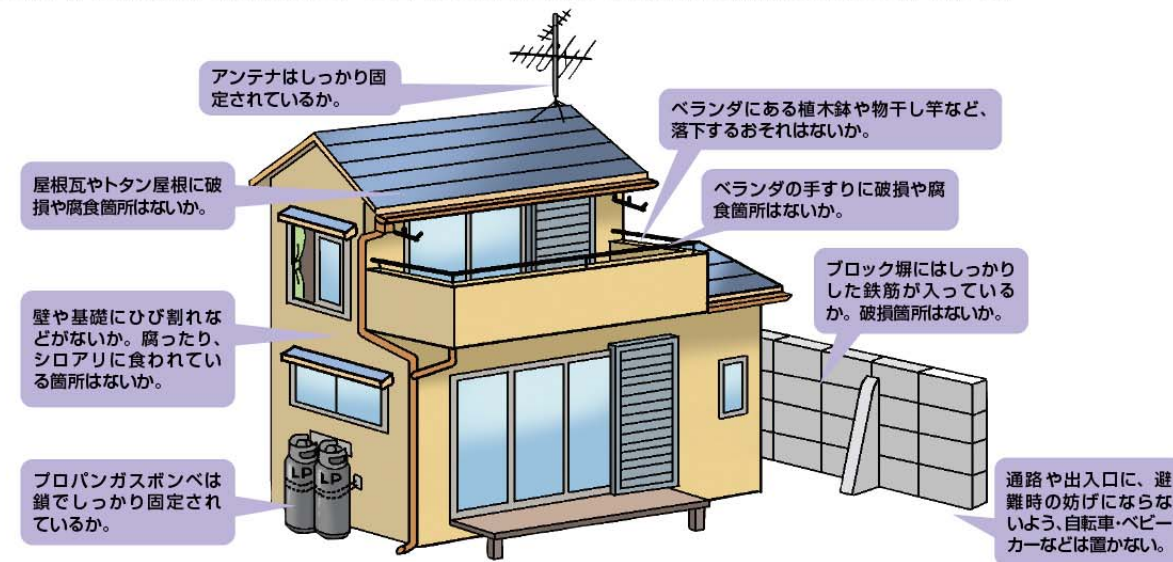
●フリーズドライ食品（スープ等）

少量のお湯で温かいものが食べられ、野菜もとれる
賞味期限：1年程度



家屋の備え

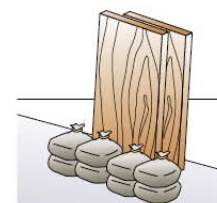
災害対策は、行政だけでできるものではありません。個人の生命や財産を守るためには、みなさん一人ひとりはもちろん、家族が協力して災害に備えることが大切です。事前にしっかりと大雨や強風への対策を取ることで被害が軽減できます。天候が悪くなる前に、ご自宅の災害に対する安全性を点検しておきましょう。



水害への備えと点検

●浸水への事前準備

浸水に備え、日頃から土のう、止水板、排水設備などの準備・点検を行きましょう。また、三郷市では、土のうの貸し出しを行っています。大雨が予想される場合は事前に貸し出しを受けるなど早めの行動を心がけましょう。



●大雨に備えて周囲を点検

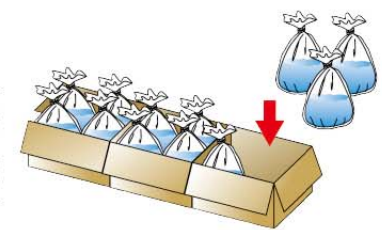
家の雨戸が傷んでいないか、雨どいがつまっていないか確認しましょう。日頃から家の周囲の側溝や雨水ますの清掃を心がけ、道路の冠水や住宅への浸水を防ぎましょう。雨水排水口を車乗入れ用のブロックなどでふさがないように気をつけましょう。

●簡単な土のうや水のうの作り方

浸水の水深が浅い段階なら、家庭にあるものを活用した応急処置で対処が可能です。

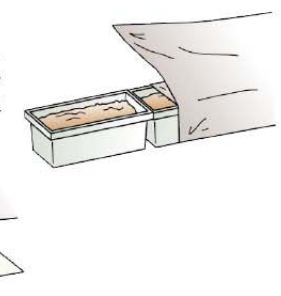
ごみ袋を利用

大きめのごみ袋などを二重にし、中に半分程度の水を入れ、すき間なく並べます。段ボールに入れて連結すると強度が増し、積み重ねることもできます。



シートを利用

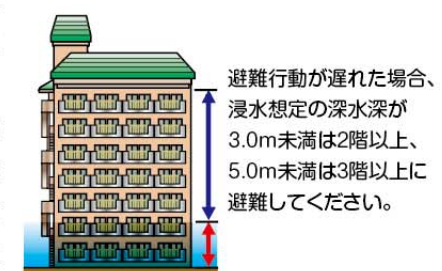
土を入れたプランターを横に並べ、レジャーシート等で巻き込んで補強します。プランターの代わりに水を入れたポリタンクや重くしたビールケースなども利用できます。



浸水の深さと立退き避難

想定される浸水の深さ及びお住まいの建物の階数に応じて、建物からの立退き避難が必要か、建物の2階以上への垂直避難でよいのか、命を守るためにとるべき避難行動が異なります。

堤防の近くで氾濫水によって家屋の流失が想定される場所（家屋倒壊等氾濫想定区域）、最上階の床の高さまで浸水すると想定される場所、半地下構造の建物に氾濫水が流入する場所、長期間浸水が継続すると想定される場所などでは、屋内で待避していても命に危険が及ぶますので、避難所への避難（立退き避難）が必要です。



避難行動が遅れた場合、浸水想定水深が3.0m未満は2階以上、5.0m未満は3階以上に避難してください。



避難時の心得

水害のおそれがあるときの避難行動

河川の水位が上昇し、氾濫の危険性が高まった場合は、河川を管理する国や県から水位や防災に関する情報が発表されます。市は、これらの情報を目安にして、雨の降り方などを総合的に判断した上で避難に関する情報を発表します。避難情報が発表された場合、市民のみなさんは、ご家族やご近所で協力して安全に避難してください。

●危険な場所に近づかない

河川の様子を見に行くなどの行動は控えましょう。また、アンダーパスや周囲よりくぼんでいる場所は冠水のおそれがあります。危険な場所を避ける避難経路を日頃から確認しておきましょう。



●正確な情報収集と自主的避難

テレビやラジオ、携帯電話などを利用して最新の気象・災害・避難に関する最新情報を入手するとともに、危険を感じたら自主的に避難しましょう。



●避難の呼びかけに注意を

水害の危険が迫ったときには市役所や消防署から避難の呼びかけをすることがあります。呼びかけがあったら速やかに避難しましょう。



●動きやすい服装で避難

避難するときは運動靴を履き、動きやすい服装にしましょう。サンダルや長靴は禁物です。



●協力しあって避難

避難するときはできるだけ単独での行動は避けましょう。また、ご近所にも声をかけ、子どもやお年寄り、体の不自由な方などの避難に協力しましょう。



●水面下に注意を

側溝やはずれたマンホールなど、水面下にはどんな危険が潜んでいるかわかりません。長い棒を杖代わりにするなど、安全を確認しながら歩きましょう。



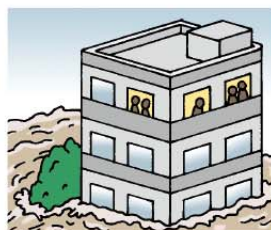
●車での避難は控える

自動車での避難は、冠水で動けなくなったり、緊急車両の通行の妨げになることがあるため、特別の場合を除き避けましょう。



●高い建物に避難

やむを得ず避難所へ避難できない場合は、近くの頑丈な建物の3階以上に避難して救助を待ちましょう。



地下空間の危険性

浸水時、地下空間には多くの危険が潜んでいます。大雨による浸水の危険があるときは、地下室や地下街、地下駐車場などに入るのは避けましょう。

●一気に水が流れ込んできます

地上が冠水すると、地下空間は換気口や採光窓など思わぬところから水が入ってくることがあります。また、流れ落ちる水で階段は登れません。



●外の様子がわかりません

地下室では雨の強さや天候の急激な変化がわかりませんので、気象情報等に注意しましょう。また、屋外の天候に変化があったときは地下室の人にも知らせましょう。



●停電するおそれがあります

浸水すると停電するおそれがあります。停電すると電灯が消え、地下空間が真っ暗になり、エレベーターも使えません。



●ドアが開きません

地上から流れ込む水の圧力で、外開きでも内開きでもドアを開けることができなくなります。



災害時に配慮が必要な人への協力

災害時に配慮が必要な人は、災害時の情報把握、避難行動、生活の確保などが困難な状況におかれます。地域で協力し合い、積極的に支援するよう心がけましょう。

●高齢者・乳幼児・病気の人には

高齢者や乳幼児は、手をつなぐ、背負うなどしてしっかり援護します。病気の方には複数の人で対応しましょう。急を要するときはひもなどを使って背負い、安全な場所へ避難しましょう。



●目の不自由な人には

「お手伝いしましょうか」などと、まず声をかけましょう。話しかける相手の声が頼りなので、話すときは、はっきりゆっくり、大きな声で、誘導するときは、杖を持っていない方のひじあたりを軽くふれるか、腕をかけて半歩前くらいをゆっくり歩きましょう。



●体の不自由な人には

それぞれの人に適した誘導方法を確認しましょう。車いすの場合は、必ず3人で協力し、階段を上がるときには前向きに、下がる時には後ろ向きにして、恐怖感を与えないように配慮しましょう。



●耳や言葉が不自由な人には

話すときは、近くまで寄って相手にまっすぐ顔を向け、口を大きくはっきり動かしましょう。口頭でわからなければ、紙とペンで筆談してみましょう。携帯電話やスマートフォンの文字入力も有効です。

